

明治史料館通信

1992. 1. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 7 No. 4 通巻第28号



今回新しくなった沼津兵学校記念碑

沼津兵学校記念碑建設の発起者



間宮信行



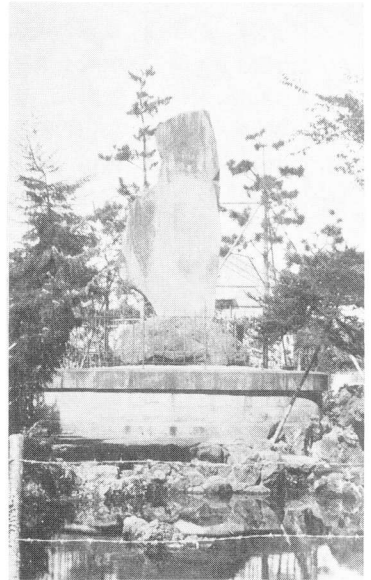
江原素六



小松陳盛



中村六三郎



かつての沼津兵学校記念碑

シリーズ 沼津兵学校とその人材 沼津兵学校記念碑と駿東小公園計画

現在、沼津市では駅の高架化や駅前整備といった事業が検討されているが、都市の「顔」とも言うべき駅前をどのように整備するかという問題は明治時代にもあった。

東海道線が開通してからまだ間もない明治二十六年（一八九三）八月、沼津やその近傍に在住の旧幕臣西村鐵五郎・土肥高正・中村六三郎・山形敬雄・間宮信行・小松陳盛・江原素六ら七名が発起者、地元や東京の有志三十六名が特別賛成員となり、「故沼津兵学校記念碑建設及駿東小公園経営東照宮社殿修築ノ画策」と題するパンフレットが印刷・配布された。これは、沼津城の跡地であり、沼津兵学校の故地でもある沼津停車場前の一帯約千五百坪の土地を購入し、そこを駿東小公園とし、あわせて沼津兵学校の栄光を伝える記念碑を建て、東照宮（明治初年からあった）の社殿を修築するという計画の趣意書だった。この計画は沼津兵学校の関係者を中心に発起されたため、忍ヶ岡の公園、すなわち東京の上野公園をモデルにしたものだったが、停車場が置かれ御用邸も造営されるに至った当時、沼津の観光地としての将来的発展を見越してのものでもあった。

しかし、寄付金が目標の四千円にははるかに及ばなかったためか、明治二十八年（碑文には二十七年とあるが）に実現したのは兵学校の記念碑のみだった。次頁の表の通り、発起者五名、特別賛成員三十六名、賛成員一二五名の募金によるものだった。その記念碑も昨一九九一年十一月、石面の剝離と城岡神社かつての東照宮の改築のため撤去され、新しい石に同じ文面を刻んだ石碑に交替した。

沼津兵学校記念碑建築資金寄付者の内訳

	職 員	資 業 生	附属小学校生徒	地元平民	その他・不明	
発起者	江原 素六 間宮 信行				土肥 高正 中村六三郎 小松 陳盛	
特別賛成員	伴 鉄太郎 西 周 大築 尚志 渡部 温 田辺 太一 永持 明德 中根 淑 黒田 久孝 山田 昌邦 山本 淑儀 万年 千秋 赤松 則良 平岡 芋作	石橋 絢彦 田口 卯吉 成瀬 隆藏 矢吹 秀一 真野 肇 松山 温徳 島田 三郎	井口 省吾	市河 篤造 仁王 藤八 荻生居十郎 和田伝太郎 渡辺平左衛門 渡辺 治平 川口与五郎 長倉誠一郎 長倉 隆吉 植松与右衛門 江藤舒三郎 足助喜兵衛	宇野三千三 鈴木 忠平 河目 俊宗	
賛成員	林 讓次 山口 知重 榎本 長裕 下 鉄象 神保 長致 関 大之	伊藤 泰明 石川 義仙 入江 倫愛 伊藤 直温 原田 信民 早川 省義 西村 正立 堀江 当三 岡 敬孝 大塚 貫一 大塚 庸俊 大川 通久 渡辺 英興 渡瀬 昌邦 渡辺 当次 加藤 寿 加藤 泰久 亀岡 為定 横地 重直 田付 直男 高松 寛剛 瀧野 磐 高田 尚賢 高浜 順之 堤 永類 永峰 秀樹 中島 静 中村 正寿	永峰 源吉 成沢 知行 奈佐 栄 中川 喜重 中川 将行 村田 惇 向山 慎吉 栗山 勝三 山口 圭三 真坂 忍 古川 宣誉 小島 好問 小菅 正直 江間 経治 荒川 重平 天野富太郎 三田 倍 清野 勉 平岡 道生 瀬名 義利 諏訪 頼永 秋元 盛之 木村 才藏 宮川 保全 望月 二郎 仙波 種艶 末吉 扨郎	小田川全之 神谷 景昌 吉見 精 山口 勝 馬渕 正文 真野 文二 深谷又三郎 足助 太郎 平山 順	伊東 信秀 磯野 直言 伊庭 秀栄 春山 清寧 馬場 為政 岡本 永 小沢一太郎 吉沢 良藏 高島 茂秀 高沢 正宜 角田 真平 中川 福雄 中島 道知 中村宗次郎 中野 久吉 野呂 寧 山口 銀 松島 玄景 福崎 和吉 藤 要藏 青木貞太郎 早乙女為房 宮氏佐太郎 下山 謹吉 平野 コマ 樋田 柳太郎 杉山 正治 杉浦 藤三郎	稲葉龍三郎 伊庭想太郎 原田貞四郎 原 忠貞 戸張 胤邦 岡本泉太郎 金子 直寿 吉田 正秀 玉江文太郎 武島恒太郎 中村銀三郎 永石光太郎 中野 要藏 名倉 知文 野間 拓 葛葉 正道 山崎 塊一 松井 利行 布施 善信 荒川 重秀 天野 多聞 酒井 次郎 寺家村和介 比留間信良 平山 直方 関 定暉 諏訪鋭之助



明治前期沼津市域の各種結社

ぬまづ近代史点描⑱

結社の時代

明治維新は封建制下では東縛・規制を受けていた民衆同志の横断的結合を可能にした。そのため明治初年から十年代にかけて堰を切ったかのように様々な結社が簇生した。この時代は政治的には自由民権運動の高揚期であったが、政治運動のみならず、学習、相互扶助、勸業・勸農、遊芸・懇親など、民衆の多様な要求が結社という形をとって現われたのである。このような現象を色川大吉氏は「集団の噴出」と呼び、「文化革命」としての自由民権運動の中に位置づけた（『自由民権』一九八一年）。

沼津にも図のように多数の結社がこの時期存在したことがわかる。実際はもっとあったに違いない。これらの恒常的な組織以外にも、単発の演説会・討論会・親睦会、大岡村小作同盟や貧民党・借金党など特定の事件に際して出現した集団など、「集団の噴出」のし方は一様ではなかった。

お知らせ欄

◎企画展「報道にみる昭和の戦争—十五年戦争期の新聞・写真雑誌—」の開催

去る十二月七日（土）から本年二月二十六日（水）までの開期で企画展「報道にみる昭和の戦争—十五年戦争期の新聞・写真雑誌—」を開催しています。昨年一九九一年は、満州事変から六十周年、太平洋戦争開戦から五十周年の節目にあたりました。この機会に、あの戦争がどのように報道されたのかを御覧いただき、それが日本国



戦時中の写真雑誌

民に、さらには他国の人々に何をもたらしたのかを考えていただければ幸いです。展示資料は、『東京朝日新聞』・『読売新聞』・『東京日日新聞』・『東京新聞』・『支那事変画報』・『写真週報』など約二百点です。

◎今井正監督映画「沼津兵学校」の上映会

去る十一月二十二日、社会派監督として日本映画界に数々の名作を送り出した今井正氏が亡くなりました。その今井監督のデビュー作が昭和十四年公開の「沼津兵学校」でした。初めて監督をすることになった時、先輩監督から沼津兵学校か札幌農学校のどちらかを選べと言われ、沼津兵学校を選択したとのことでした。

上映会は一月十二日（日）午後二時から当館講座室で開催し、九十名も参加して盛会でした。



昭和14年上映当時のチラシ

◎受贈刊行物紹介

復興期の品川（品川区立品川歴史館）、山口三男家文書目録（岐阜県歴史資料館）、立憲政治の父片岡健吉解説目録・高知市立自由民権記念館紀要No.1（高知市立自由民権記念館）、寒川町史12別編民俗（寒川町）、図説ふじさわの歴史（藤沢市文書館）、新宿に生きた人林美美子（新宿区立新宿歴史博物館）、八王子市の絵師—関文川と高麗宗山—（八王子市郷土資料館）、南方熊楠とその時代（和歌山市立博物館）、飛鳥の源流（奈良国立文化財研究所飛鳥資料館）、記録と史料第2号（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）、北海道開拓記念館調査報告第30号・北海道における産業技術記念物の所在調査（北海道開拓記念館）、京都市歴史資料館紀要第8号（京都市歴史資料館）、すまひ・角力・相撲（石川県立歴史博物館）、農大報91・92（東京農業大学）、地域史研究はこだて第14号（函館市史編さん室）、鎌ヶ谷のあゆみ・鎌ヶ谷市史料目録第一集（鎌ヶ谷市郷土資料館）、草加市史資料編

IV（草加市）、吉野の山村と伝承文化（奈良県立民俗博物館）、岐阜県博物館調査報告第12号（岐阜県博物館）、宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報一九九〇（大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館）、千曲川（長野市立博物館）、善福寺の鳥たち（杉並区立郷土博物館）、富山県公文書館文書目録歴史文書四・五（富山県公文書館）、神戸市立博物館年報No.6（神戸市立博物館）、沖縄県立博物館紀要第17号（沖縄県立博物館）、レンズがとらえた昭和の横浜港（横浜マリタイムミュージアム）、清水村関係文書目録（富山県郷土博物館）、大阪市立博物館報No.30（大阪市立博物館）、文書館紀要第5号（埼玉県立文書館）、牛久市史研究創刊号（牛久市）

以上最近受贈した県外関係の主なもの（寄贈者・敬称略）。

沼津市明治史料館通信 第28号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1
☎〇五五九(2)三三三五
FAX 〇五五九(2)三〇一八